

2025年度 地理歴史科 年間授業計画表						
科目名	世界史探究	単位数	4	学年・類型	3年文系	
担当者		使用教科書	詳説世界史(山川出版社)		副教材	ニューステージ 世界史詳覧(浜島書店)
科目の目標 (指導目標)	社会的事象の歴史的な見方・考え方を働かせ、課題を追究したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を育成することを目指す。					
評価の観点とその趣旨						
①知識・技能	世界の歴史の大きな枠組みと展開に関わる諸事象について、地理的条件や日本の歴史と関連付けながら理解しているとともに、諸資料から世界の歴史に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けるようにする。					
②思考・判断・表現	世界の歴史の大きな枠組みと展開に関わる事象の意味や意義、特色などを、時期や年代、推移、比較、相互の関連や現代世界とのつながりなどに着目して、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、歴史に見られる課題を把握し解決を視野に入れて構想したりする力や、考察、構想したことを効果的に説明したり、それらを基に議論したりする力を養う。					
③主体的に学習に取り組む態度	世界の歴史の大きな枠組みと展開に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に探究しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚、我が国の歴史に対する愛情、他国や他国の文化を尊重することの大切さについての自覚などを深める。					
評価方法						
① 知識・技能について・・・定期テスト、課題テスト、単元テスト						
② 思考力・判断力・表現力について・・・定期テスト、単元テスト、レポート等の作成						
③ 主体的に学習に取り組む態度・・・授業中の諸活動における取り組みの様子、自己評価、生徒による相互評価						
学習指導計画						
時期	単元名	使用教科書項目	単元や題材など内容のまとまりごとの目標	評価の観点		
				④	⑤	
1学期	第5章 イスラーム教の成立とヨーロッパ世界の形成	2 ヨーロッパ世界の形成	①ヨーロッパの自然条件と大規模な人の移動との関係について理解する。 ②ビザンツ帝国の繁栄について、同時期の西ヨーロッパと比較したうえで理解する。 ③ローマ教会とフランク王国の関係を多面的・多角的に考察し表現する。 ④カールの戴冠が世界の歴史において持つ意義について理解する。 ⑤ノルマン人が西ヨーロッパ世界において果たした歴史的役割について理解する。 ⑥西ヨーロッパに特有の封建社会の仕組みについて理解する。	○	○	○
	第6章 イスラーム教の伝播と西アジアの動向	諸地域の交流・再編 1 イスラーム教の諸地域への伝播 2 西アジアの動向	①イスラーム化が中央アジアにもたらした変化について理解している。 ②南アジアにおいてイスラーム教が受け入れられていった経緯を理解している。 ③東南アジア・アフリカにおいてイスラーム化が進んだ背景について考察し表現している。 ④トルコ人の進出が西アジアにもたらした変化について考察し表現している。 ⑤十字軍やモンゴルの進出が西アジアにもたらした影響について考察し表現している。 ⑥マムルーク朝のもとでのカイロの繁栄がどのように実現したのか理解している。 ⑦イベリア半島におけるイスラーム勢力の興亡について理解している。	○	○	○
	第7章 ヨーロッパ世界の変容と展開	1 西ヨーロッパの封建社会とその展開 2 東ヨーロッパ世界の展開 3 西ヨーロッパ世界の変容 4 西ヨーロッパの中世文化	①中世の西ヨーロッパにおいてローマ＝カトリック教会が普遍的な権威を持つにいたった背景を理解する。 ②十字軍の遠征の経緯を理解し、それが社会に与えた影響を多面的・多角的に考察し表現する。 ③ビザンツ帝国の衰退の要因を多面的・多角的に考察し表現する。 ④スラヴ人が各地域で自立していった経緯を理解する。 ⑤封建社会が解体に向かった背景を多面的・多角的に考察し表現する。 ⑥教皇権の衰退と王権の伸張の関係について理解する。 ⑦百年戦争によるイギリスとフランスの変容を多面的・多角的に考察し表現する。 ⑧神聖ローマ帝国で中央集権が進まなかった要因を多面的・多角的に考察し表現する。 ⑨中世の西ヨーロッパにおいてキリスト教が果たした文化的役割を理解する。 ⑩西ヨーロッパにおける大学の成立過程を理解する。 ⑪中世の西ヨーロッパの美術や文学と、その時代の社会との関係を考察し表現する。	○	○	○
	第8章 東アジア世界の展開とモンゴル帝国	1 アジア諸地域の自立化と宋 2 モンゴルの大帝国	①10世紀前半に東アジアで政権の交替があいついだ背景を理解する。 ②宋の対外関係の特徴を多面的・多角的に考察し表現する。 ③宋における社会や経済の発展の様子を理解する。 ④宋代の文化の特徴を多面的・多角的に考察し表現する。	○	○	○

			①モンゴル帝国が成立した背景を多面的・多角的に考察し表現する。 ②モンゴル帝国による支配が東アジアにおよぼした影響について理解する。 ③モンゴル帝国時代の東西交流の新しさを多面的・多角的に考察し表現する ④ティムール朝がモンゴル帝国から受け継いだものを多面的・多角的に考察し表現する。 ①モンゴル帝国解体後のアジア各地の状況について理解する。 ②明朝初期の国内統治の特徴を多面的・多角的に考察し表現する。 ③明との朝貢関係が諸地域にもたらした影響を多面的・多角的に考察し表現する。 ④明代後期の中国の社会・経済・文化と世界の商業の活発化との関係を考察し表現する。	○	○	○
第9章 大交易・大交流の時代	1 アジア交易世界の興隆		①ヨーロッパの人々が遠洋に乗り出していった動機や背景を多面的・多角的に考察し表現する。 ②ヨーロッパの人々の進出がアジアにもたらした影響や変化を理解する。 ③中南米の先住民が短期間でスペイン人に征服された要因を理解する。 ④16世紀に一体化が始まった「世界」の性格を多面的・多角的に考察し表現する。	○	○	○
第10章 アジアの諸帝国の 繁栄	1 オスマン帝国と サファヴィー朝		①オスマン帝国の基礎が築かれた経緯を理解する。 ②オスマン帝国の勢力拡大の経緯を理解する。 ③オスマン帝国の統治が当時の人々に与えた影響を多面的・多角的に考察し表現する。 ④サファヴィー朝の支配がイラン社会に与えた影響を多面的・多角的に考察し表現する。	○	○	○
	2 ムガル帝国の興隆		①ムガル帝国の基礎が築かれた経緯を理解する。 ②ムガル帝国におけるヒンドゥー教徒とイスラーム教徒の関係を多面的・多角的に考察し表現する。 ③ムガル帝国の衰退の背景や要因を多面的・多角的に考察し表現する。	○	○	○
	3 清代の中国と 隣接諸地域		①清朝の領土に組み込まれた民族と、彼らがどのように統治されていたかを理解する。 ②清代における周辺諸国と中国との関係について、明代と比較したうえで多面的・多角的に考察し表現する。 ③漢人の社会や文化に対して清朝がどのような態度をとったのかを理解する。	○	○	○
第11章 近世ヨーロッパ世 界の動向	1 ルネサンス		①ルネサンスの担い手や彼らの動機について理解する。 ②ルネサンスを支えた精神の特徴を理解し、それが後世に与えた影響を考察し表現する。 ③多方面におよぶルネサンスの成果が後世に与えた影響を理解する。	○	○	○
	2 宗教改革		①それまでの教会改革の試みと16世紀の宗教改革の違いを多面的・多角的に考察し表現する。 ②カルヴァンの教義の特徴やイギリス国教会の成立の意義を理解する。 ③カトリック改革が持つ世界史的な意義を多面的・多角的に考察し表現する。	○	○	○
	3 主権国家体制の成立		①主権国家体制の成立の経緯を多面的・多角的に考察し表現する。 ②16世紀後半のスペイン・イギリス・フランスの関係を理解する。	○	○	○
	4 オランダ・イギリス・ フランスの台頭		③アウクスブルクの和議とウエストファリア条約の異なる点を理解する。 ④17世紀におけるオランダの経済的な覇権獲得および衰退の要因を多面的・多角的に考察し表現する。 ⑤17世紀における2つのイギリスの革命について、国際的な状況もふまえて理解する。	○	○	○
	5 北欧・東欧の動向		③近世フランスの強みと課題を多面的・多角的に考察し表現する。 ④イギリスとフランスの覇権争いがグローバルな戦いになった背景を理解する。 ①主権国家体制においてポーランドとスウェーデンが占めた位置を理解する。 ②ロシアが主権国家体制に参入していった経緯を理解する。 ③プロイセンとオーストリアの関係の推移を多面的・多角的に考察し表現する。 ④啓蒙専制主義の特徴を理解する。	○	○	○
	6 科学革命と啓蒙思想		①科学革命の成果について、自然法則の発見以外にも着目して理解する。 ②科学革命がヨーロッパ人に与えた影響を多面的・多角的に考察し表現する。 ③従来の学知の展開と比較したうえで、「実用の学」としての啓蒙思想の意義を理解する。	○	○	○
第12章 産業革命と環大西 洋革命	諸地域の結合・変容 1 産業革命		①海外貿易が近世ヨーロッパ経済の動向に与えた影響を理解する。 ②イギリス産業革命が世界経済や社会に与えた影響を多面的・多角的に考察し表現する。 ③16世紀に始まった「世界の一体化」とイギリス産業革命との関係について理解する。	○	○	○
	2 アメリカ合衆国の独立 と発展		①北米大陸に建設されたヨーロッパ諸国の植民地の地理的分布とその推移を理解する。 ②独立直後と今日のアメリカ合衆国を比較し、共通点と相違点を理解する。 ③アメリカ合衆国の独立がヨーロッパ諸国に与えた影響を多面的・多角的に考察し表現する。	○	○	○
	3 フランス革命とナポレ オンの支配		①革命中のフランス国家体制の変遷や革命が諸外国に与えた影響を理解する。 ②人権宣言とアメリカ独立宣言を比較し、共通点と相違点を理解する。 ③ナポレオンの支配に対する人々の反応を多面的・多角的に考察し表現する。	○	○	○
	4 中南米諸国の独立		①ハイチ革命の特殊性について、環大西洋革命の他の事例と比較したうえで理解する。 ②中南米諸国の独立運動に共通する点を理解する。 ③中南米諸国の独立運動とヨーロッパ情勢との関係を多面的・多角的に考察し表現する。	○	○	○
第13章 イギリスの優位と 欧米国民国家の形 成	1 ウィーン体制と ヨーロッパの政治・社会 の変動		①ウィーン会議の参加者たちがどのような国際秩序をめざしていたかを理解する。 ②ウィーン体制を動揺させた要因を多面的・多角的に考察し表現する。 ③19世紀イギリスの政治変革の特徴について、大陸諸国と比較したうえで理解する。 ④イギリス・フランス・ドイツにおける社会主義思想をそれぞれ比較したうえで理解する。 ⑤1848年革命の展開と影響について、ヨーロッパ内の地域差に着目して多面的・多角的に考察し表現する。	○	○	○
2 学 期	2 列強体制の動揺と ヨーロッパの再編成		①クリミア戦争におけるロシア・イギリス・フランスのそれぞれの思惑を理解する。 ②19世紀後半におけるロシア・イギリス・フランスの諸改革の相違点を理解する。 ③ドイツとイタリアの国民国家成立を比較し、共通点と相違点を理解する。 ④ドイツ帝国におけるビスマルクの諸政策の動機を多面的・多角的に考察し表現している。 ⑤北欧諸国の安定性について、周辺諸国と比較したうえで多面的・多角的に考察し表現する。 ⑥19世紀後半にさまざまな国際運動が進化した背景を理解する。	○	○	○
	3 アメリカ合衆国の発展		①領土拡大がアメリカ社会に与えた影響を多面的・多角的に考察し表現する。 ②南北戦争において北部が勝利した要因を理解する。 ③アメリカ合衆国の歴史において移民が持つ意味を多面的・多角的に考察し表現する。 ④19世紀欧米文化における担い手や展開された場（空間）の推移を理解する。 ⑤国民文化と国民国家形成との関係を多面的・多角的に考察し表現する。	○	○	○

2 学 期	第 14 章 アジア諸地域の 動揺	4 19 世紀欧米文化の 展開と市民文化の繁栄	③近代諸科学の発展の要因とその成果が広まった背景を理解する。 ④大都市文化が都市の景観に与えた影響を多面的・多角的に考察し表現する。 ①オスマン帝国の動揺の要因を多面的・多角的に考察し表現する。 ②オスマン帝国の列強への経済的な従属化の経緯を理解する。 ③オスマン帝国の改革の成果と課題を理解する。 ④ロシアとイギリスの競合関係が西アジアに与えた影響を多面的・多角的に考察し表現する。 ①ヨーロッパ各国の東インド会社が南アジアでおこなった活動の状況を理解する。 ②イギリス東インド会社の機能の変化を多面的・多角的に考察し表現する。 ③東インド会社の統治と比較したうえで、イギリスによるインドの直接統治の特徴を理解する。 ④東南アジアの植民地化の経緯を理解する。 ⑤タイが植民地化されなかった要因を多面的・多角的に考察し表現する。			
		1 西アジア地域の変容	①清朝の危機の要因を多面的・多角的に考察し表現する。 ②中国の開港の背景および開港の進展の経緯を理解する。 ③清朝による国内秩序の再建の試みについて、その成果と課題を理解する。 ④東アジア各地の開港および貿易の拡大がもたらした影響を理解する。 ⑤欧米諸国の進出と日本の台頭が東アジア諸国間の関係に与えた影響を多面的・多角的に考察し表現する。	○	○	○
		2 南アジア・東南アジアの 植民地化	①新しく生まれた電気・化学製品が人々の日常生活に与えた影響を理解する。 ②帝国主義の支配を受けた地域における社会や文化の変化を多面的・多角的に考察し表現する。 ③各列強が抱えていた国内事情とその課題を理解する。 ④この時期に国際労働運動が再燃した背景とその特徴を多面的・多角的に考察し表現する。 ①列強の植民地化によるアフリカの社会や文化の変容を多面的・多角的に考察し表現する。 ②列強による太平洋地域の植民地化の経緯を理解する。 ③独立後のブラジル・アルゼンチン・メキシコがたどった道を比較し、共通点と相違点を理解する。 ④20 世紀初頭における列強体制の枠組みの変化を多面的・多角的に考察し表現する。	○	○	○
	第 15 章 帝国主義とアジア の民族運動	3 東アジアの激動	①日清戦争と日露戦争が中国および東アジアに与えた影響を多面的・多角的に考察し表現する。 ②改革をおこなったにもかかわらず清朝が倒れた原因を理解する。 ③インドにおける民族運動の社会的背景を多面的・多角的に考察し表現する。 ④東南アジア各地の民族運動に共通する傾向を理解する。 ⑤西アジア各地における民族運動の共通点を理解する。	○	○	○
		1 第 2 次産業革命と 帝国主義	①バルカン半島で緊張が高まった背景を理解する。 ②歴史上はじめての世界大戦が勃発した原因を多面的・多角的に考察し表現する。 ③戦時外交および総力戦の特徴を理解する。 ④第一次世界大戦がもたらした影響を多面的・多角的に考察し表現する。 ⑤ロシア革命の経緯を理解し、その歴史的意義を多面的・多角的に考察し表現する。	○	○	○
		2 列強の世界分割と 列強体制の二分化	①第一次世界大戦後の新たな国際秩序が形成された経緯を理解する。 ②西欧諸国における第一次世界大戦後の展開を多面的・多角的に考察し表現する。 ③国際協調をめぐる 1920 年代の前半と後半の変化を理解する。 ④イタリアにおけるファシズム体制成立の背景を多面的・多角的に考察し表現する。 ⑤東欧・バルカン半島の新興国が直面した困難と、それに対応すべく築かれた体制を理解する。 ⑥1920 年代のソ連とアメリカのそれぞれの国内情勢を理解する。	○	○	○
	第 16 章 第一次世界大戦と 世界の変容	3 アジア諸国の変革と 民族運動	①第一次世界大戦が東アジアの政治・経済・文化に与えた影響を多面的・多角的に考察し表現する。 ②日本の勢力拡大に対する中国・朝鮮の人々の対応を多面的・多角的に考察し表現する。 ③南京国民政府による中国統一達成までの経緯を理解する。 ④第一次世界大戦後のインド・東南アジア・アフリカにおける民族運動の経緯を理解する。 ⑤第一次世界大戦による西アジアの政治地図の変化を理解する。	○	○	○
		1 第一次世界大戦と ロシア革命	①世界恐慌が起こった背景やその影響を多面的・多角的に考察し表現する。 ②ニューディール政策およびブロック経済の特徴や世界経済への影響を理解する。 ③ナチス＝ドイツの体制が成立する経緯とその政策内容を理解する。 ④ソ連の計画経済が資本主義諸国に与えた影響を理解する。 ⑤日本と中国が全面戦争へいたった背景を多面的・多角的に考察し表現する。 ⑥ファシズム諸国の攻勢が国際政治に与えた影響を理解する。	○	○	○
		2 ヴェルサイユ体制下の 欧米諸国	①開戦直前における各国のナチス＝ドイツへの対応を多面的・多角的に考察し表現する。 ②ヨーロッパにおける第二次世界大戦の展開を理解する。 ③独ソ戦および太平洋戦争の開戦が第二次世界大戦にもたらした影響を多面的・多角的に考察し表現する。 ④第二次世界大戦の終戦までの経緯を理解する。 ⑤第一次世界大戦と比較して、第二次世界大戦の特徴を多面的・多角的に考察し表現する。	○	○	○
	第 17 章 第二次世界大戦と 新しい国際秩序の 形成	3 アジア・アフリカ地域の 民族運動	①戦後国際秩序がいかなる構想のもとで形成されたのかを理解する。 ②冷戦開始および東西ヨーロッパ分断の進展について、それぞれの経緯を理解する。 ③国民党が共産党に敗れた原因を多面的・多角的に考察し表現する。 ④朝鮮戦争が東アジアの国際情勢に与えた影響を多面的・多角的に考察し表現する。 ⑤東南アジアおよび南アジアの独立の背景や経緯を理解する。 ⑥現代の中東問題の要因を多面的・多角的に考察し表現する。	○	○	○
		1 世界恐慌とヴェルサイ ユ体制の破壊	①米ソそれぞれの同盟網の広がりや核開発競争の経緯を理解する。 ②冷戦の進展がアメリカ社会に与えた影響を多面的・多角的に考察し表現する。 ③西欧と日本の経済復興の背景をそれぞれ理解する。 ④スターリン死後のソ連と東欧における変化を多面的・多角的に考察し表現する。	○	○	○
		2 第二次世界大戦	①自立化を追求するアジア・アフリカの新興諸国がいかなる行動をとったのかを理解する。 ②アフリカなどの新興国が直面した困難の内容とその原因を理解する。 ③キューバ革命の背景および影響を多面的・多角的に考察し表現する。 ④国際社会が核兵器の制限に取り組むようになった経緯を理解する。	○	○	○
		3 新しい国際秩序の形成	①国際情勢との関係をふまえたうえで、米ソ代理戦争としてのベトナム戦争の性格を理解する。 ②1960 年代におけるアメリカ合衆国とソ連の変容を多面的・多角的に考察し表現する。 ③ヨーロッパにおいて緊張緩和が進展した経緯を理解する。 ④ソ連のスターリン批判が中国へ与えた影響を理解する。	○	○	○
	第 18 章 冷戦と第三世界の 台頭	1 冷戦の展開	⑤第三世界における開発独裁の特徴を多面的・多角的に考察し表現する。 ①経済成長ともなう先進諸国の政策・社会の変化を多面的・多角的に考察し表現する。 ②1970 年代初頭に世界経済がいかなる転換を迎えたのかを理解する。 ③オイル＝ショックが各国の社会と経済に与えた影響を多面的・多角的に考察し表現する。 ④1960～1970 年代の中東における変容の経緯を理解する。 ⑤1970～1980 年代に進んだ開発途上国の工業化の経緯を理解する。	○	○	○
		2 第三世界の台頭と キューバ危機	①1970 年代後半から 80 年代前半において米ソがそれぞれ追求した対外政策の内容を理解する。 ②ソ連で始まった改革と東欧革命との関係を多面的・多角的に考察し表現する。 ③東西対立の緩和が東アジアやアフリカなど諸地域にもたらした影響を理解する。 ④ゴルバチョフの改革が挫折した原因を多面的・多角的に考察し表現する。	○	○	○
		3 冷戦体制の動揺				
	第 19 章 冷戦の終結と 今日の世界	1 産業構造の変容				
		2 冷戦の終結				

3 学 期		3 今日の世界 4 現代文明の諸相 地球世界の課題の探究	①旧社会主義国で起こった民族運動や民族対立の特徴を理解する。 ②冷戦終結後の東アジア諸国の変化を多面的・多角的に考察し表現する。 ③今日の東南アジア・南アジア諸国においていかなる政治的・経済的变化が生じているのかを理解する。 ④冷戦終結後のアフリカが有する課題と可能性を多面的・多角的に考察し表現する。 ⑤冷戦終結後も続く地域・民族紛争の背景や経緯を理解する。 ⑥経済における世界の一体化の経緯を理解する。 ⑦21世紀初めにアメリカ合衆国がおこなった戦争の背景や経緯を理解する。 ⑧今日の国際関係の特徴と、必要とされている協力の内容を多面的・多角的に考察し表現する。 ①20世紀以降の科学技術の革新が人々の生活に与えた影響を多面的・多角的に考察し表現する。 ②現代思想・文化における新しい潮流の内容を理解する。 ③両性の同権化の進展について、その経緯と残されている課題を理解する。 ①「紛争解決や共生」「経済格差の是正や経済発展」「科学技術の発展や文化の変容」といったテーマにおける課題の追究や解決のために、適切かつ効果的に諸資料を活用し、歴史的経緯をふまえて、地球世界の課題を理解している。 ②地球世界の課題の形成に関わる諸事象の歴史的背景や原因、結果や影響、事象相互の関連、諸地域相互のつながりなどに着目し、諸資料を比較したり関連付けたりして読み解き、地球世界の課題の形成に関わる世界の歴史について多面的・多角的に考察、構想し、表現している。 ③地球世界の課題について、よりよい社会の実現を視野に主体的に探究しようとする態度を養っている。	○	○	○
留意事項						

2025年度 地歴公民科				年間授業計画表		
科目名	日本史探究	単位数	4	学年・類型	3年文系・選択	
担当者		使用教科書	詳説日本史（山川出版社）		副教材	詳説日本史図録ほか
科目の目標 (指導目標)	社会的事象の歴史的な見方・考え方を働かせ、課題を追究したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を次のとおり育成することを目指す。					
評価の観点とその趣旨						
① 知識・技能	日本の歴史の展開に関わる諸事象について、地理的条件や世界の歴史と関連付けながら総合的に捉えて理解するとともに、諸資料から我が国の歴史に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べ、まとめる技能を身に付けるようにする。					
② 思考・判断・表現	日本の歴史の展開に関わる事象の意味や意義、伝統と文化の特色などを、時期や年代、推移、比較、相互の関連や現在とのつながりなどに着目して、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、歴史に見られる課題を把握し解決を視野に入れて構想したりする力や、考察、構想したことを効果的に説明したり、それらを基に議論したりする力を養う。					
③ 主体的に学習に取り組む態度	日本の歴史の展開に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に探究しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚、我が国の歴史に対する愛情、他国や他国の文化を尊重することの大切さについての自覚などを深めようとしている。					
評価方法						
① 知識・技能について・・・定期テスト、課題テスト ② 思考力・判断力・表現力について・・・定期テスト、論述型レポートの作成等 ③ 主体的に学習に取り組む態度・・・授業中の諸活動における取り組みの様子、自己評価、生徒による相互評価						
学習指導計画						
時期	単元名	使用教科書項目	単元や題材など内容のまとめりごとの目標	評価の観点		
				①	②	③
1学期前半	8章 近世の幕開け	1 織豊政権 2 桃山文化	○織豊政権の政治・経済政策、貿易や対外関係などを基に、中世から近世への時代の転換を理解すること。	○	○	○
	〈歴史資料と近世の展望〉	○生類憐みの令からみる江戸時代の社会の変化	○著名な法令を、多面的に読み解くことにより理解を深め、それ以前の時代と比較して考察する。また資料の残存の仕方について理解する。	○	○	○
1学期後半	9章 幕藩体制の成立と展開	1 幕藩体制の成立 2 幕藩社会の構造 3 幕政の安定 4 経済の発展 5 元禄文化	○村落や都市の支配の変化、アジア各地やヨーロッパ諸国との交流の影響などに着目して、中世から近世の国家・社会の変容を多面的・多角的に考察し、表現すること。 ○法や制度による支配秩序の形成と身分制、貿易の統制と対外関係、技術の向上と開発の進展、学問・文化の発展などを基に、幕藩体制の確立、近世の社会と文化の特色を理解すること。	○	○	○
	10章 幕藩体制の動揺	1 幕政の改革 2 宝暦・天明期の文化 3 幕府の衰退と近代への道 4 化政文化	○産業の発達、飢饉や一揆の発生、幕府政治の動揺と諸藩の動向、学問・思想の展開、庶民の生活と文化などを基に、幕藩体制の変容、近世の庶民の生活と文化の特色、近代化の基盤の形成を理解すること ○社会・経済の仕組みの変化、幕府や諸藩の政策の変化、国際情勢の変化と影響、政治・経済と文化との関係などに着目して、主題を設定し、近世の国家・社会の変容について、事象の意味や意義、関係性などを多面的・多角的に考察し、歴史に関わる諸事象の解釈や歴史の画期などを根拠を示して表現すること。	○	○	○
1学期後半	11章 近世から近代へ	1 開国と幕末の動乱 2 幕府の滅亡と新政府の発足	○欧米諸国の進出によるアジア諸国の変化、政治・経済の変化と思想への影響などに着目して、近世から近代の国家・社会の変容を多面的・多角的に考察し、表現すること。 ○時代の転換に着目して、近代の特色について多面的・多角的に考察し、時代を通観する問いを表現すること	○	○	○

2 学 期 前 半	〈歴史資料と近代・現代の展望〉	○五箇条の誓文と国是	○近現代国家が歴史の転換点で国民に示してきた「国是」を手掛かりにして明治以降の歴史の流れについて考察し、理解を深める。	○	○	○
	1 2 章 近代国家の成立	1 明治維新と富国強兵 2 立憲国家の成立	○明治維新，自由民権運動，大日本帝国憲法の制定，条約改正，日清・日露戦争，第一次世界大戦，社会運動の動向，政党政治などを基に，立憲体制への移行，国民国家の形成，アジアや欧米諸国との関係の変容を理解すること。	○	○	○
	1 3 章 近代国家の展開	1 日清・日露戦争 2 第一次世界大戦 3 ワシントン体制				
	1 4 章 近代の産業と生活	1 近代産業の発展 2 近代文化の発達 3 市民生活の変容と大衆文化	○文明開化の風潮，産業革命の展開，交通の整備と産業構造の変容，学問の発展や教育制度の拡充，社会問題の発生などを基に，産業の発展の経緯と近代の文化の特色，大衆社会の形成を理解すること ○近代の特色を示す適切な歴史資料を基に，資料から歴史に関わる情報を収集し，読み取る技能を身に付けること	○	○	○
2 学 期 後 半	1 5 章 恐慌と第2次世界大戦	1 恐慌の時代 2 軍部の台頭 3 第2次世界大戦	○恐慌と国際関係，軍部の台頭と対外政策，戦時体制の強化と第二次世界大戦の展開などを基に，第二次世界大戦に至る過程及び大戦中の政治・社会，国民生活の変容を理解すること。	○	○	○
	1 6 章 占領下の日本	1 占領と改革 2 冷戦の開始と講和	○占領政策と諸改革，日本国憲法の成立，平和条約と独立の回復，戦後の経済復興，アジア諸国との関係，高度経済成長，社会・経済・情報の国際化などを基に，我が国の再出発及びその後の政治・経済や対外関係，現代の政治や社会の枠組み，国民生活の変容を理解すること。	○	○	○
	1 7 章 高度成長の時代	1 55年体制 2 経済復興から高度経済成長へ	○第二次世界大戦前後の政治や社会の類似と相違，冷戦の影響，グローバル化の進展の影響，国民の生活や地域社会の変化などに着目して，主題を設定し，戦前と戦後の国家・社会の変容，戦後政治の展開，日本経済の発展，第二次世界大戦後の国際社会における我が国の役割について，事象の意味や意義，関係性などを多面的・多角的に考察し，歴史に関わる諸事象の解釈や歴史の画期などを根拠を示して表現すること	○	○	○
3 学 期	1 8 章 激動する世界と日本	1 経済大国への道 2 冷戦の終結と日本社会の変容	○日本と世界の相互の関わり，地域社会の変化，近現代史の学習で見いだした画期などに着目して，事象の意味や意義，関係性などを構造的に整理して多面的・多角的に考察し，我が国の近現代を通じた歴史の画期を見いだし，根拠を示して表現すること	○	○	○
	〈現代日本の課題の探究〉	○災害対応について ○災害救助について ○災害と文化財について	○「災害」という観点から，これまで学んできた日本の歴史をふりかえり，仮説を立て，これを検証することを通じて，高校における歴史学習のまとめとする。	○	○	○
留意事項						

2025年度			地理歴史科		年間授業計画表		
科目名	世界史探究演習	単位数	4	学年・類型	3年 文系・選択		
担当者		使用教科書	詳説世界史（山川出版社）		副教材	ニュースページ 世界史詳覧（浜	
科目の目標 (指導目標)	◎歴史の展開に対する問題意識を高め、問題演習を通じて知識の定着をはかる。 ◎定着した知識を応用し歴史的事象を理論的に展開し構築する力を養う。 ◎現代世界の諸問題の背景を歴史的繋がりから理解する。						
評 価 の 観 点 と そ の 趣 旨							
①知識・技能	世界の歴史の大きな枠組みと展開に関わる諸事象について、地理的条件や日本の歴史と関連付けながら理解していると同時に、諸資料から世界の歴史に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けるようにする。						
②思考・判断・表現	世界の歴史の大きな枠組みと展開に関わる事象の意味や意義、特色などを、時期や年代、推移、比較、相互の関連や現代世界とのつながりなどに着目して、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、歴史に見られる課題を把握し解決を視野に入れて構想したりする力や、考察、構想したことを効果的に説明したり、それらを基に議論したりする力を養う。						
③主体的に学習に取り組む態度	世界の歴史の大きな枠組みと展開に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に探究しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚、我が国の歴史に対する愛情、他国や他国の文化を尊重することの大切さについての自覚などを深める。						
評 価 方 法							
① 知識・技能について・・・定期テスト、単元テスト ② 思考力・判断力・表現力について・・・定期テスト、レポート等の作成 ③ 主体的に学習に取り組む態度・・・授業中の諸活動における取り組みの様子							
学 習 指 導 計 画							
時期	単元名	使用教科書項目	単元や題材など内容のまとまりごとの目標	評価の観点			
				①	②	③	
1 学期 前半	古代～中世に関する講義と問題演習	古代～中世に関する履修内容の確認、大学入試問題、記述問題を解く。	西アジア世界と、地中海世界の形成を概観し、その関係を理解する。南アジア世界の独自の宗教と社会制度を理解する。 中華文明の起源からモンゴル・元代までを、遊牧民との関係に留意して理解する。	○	○	○	
1 学期 後半	古代～中世に関する講義と問題演習 期末テスト	古代～中世に関する履修内容の確認、大学入試問題、記述問題を解く。	イスラーム帝国の成立と展開、拡大を確認する。 中世ヨーロッパ史を、宗教・民族に留意しつつ確認する。 東アジアの動きを北方民族と関連させ、その繁栄と成熟を中心に確認する。	○	○	○	
2 学期 前半	近代に関する講義と問題演習	近代に関する履修内容の確認、大学入試問題、記述問題を解く。	16～19世紀のヨーロッパ世界の動向を、アメリカ・アフリカとの関係を含め理解する。 世界市場の形成を背景にしたヨーロッパ諸国のアジア進出と、アジア諸国の対応を理解する。さらに、帝国時代の世界の一体化と社会の変容を確認する。	○	○	○	
2 学期 後半	近現代に関する講義と問題演習 学年末テスト	近現代に関する履修内容の確認、大学入試問題、記述問題を解く。	20世紀前半の国際関係の変遷と社会の特質を理解する。さらに第二次世界大戦の終結から冷戦体制、70年代以降の冷戦体制の崩壊を復習して確認する。	○	○	○	
3 学期	総復習	各時代・各分野を総合した問題演習。	正確な知識に基づく歴史的思考力によって解答を導くことができる。	○	○	○	
留意事項		◎世界の歴史は地域ごとに独立したものではなく、互いに関連を持ちながらも同時に進行していくので、他地域との関係にも十分注意して理解することに努める。思想や宗教的背景なども留意する。 ◎学習中に、知らない用語はその都度用語集で確認し、さらに理解を深めるために史料を使うよう心がける。 ◎知識を整理し理解を深めるために、問題演習を適宜に入れる。					

2025年度		地歴公民科		年間授業計画表		
科目名	日本史探究演習	単位数	4	学年・類型	3年文系・選択	
担当者		使用教科書	山川出版社「日本史探究」	副教材	山川出版社「日本史図録」	
科目の目標 (指導目標)	○日本の歴史の展開について総合的な理解を深め、各時代の展開に関わる概念等を活用して多面的・多角的に考察し、歴史に見られる課題を把握し、地域や日本、世界の歴史の関わりを踏まえ、現代の日本の諸課題とその展望を探究する力を養うこと ○日本の歴史について、資料を活用し多面的・多角的に考察する力を身に付け、現代の日本の諸課題を見いだして、その解決に向けて生涯にわたって考察、構想することができる資質・能力を育成する					
評価の観点とその趣旨						
①知識・技能	日本の歴史の展開に関わる諸事象について、地理的条件や世界の歴史と関連付けながら総合的に捉えて理解するとともに、諸資料から我が国の歴史に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けるようにする。					
②思考・判断・表現	日本の歴史の展開に関わる事象の意味や意義、伝統と文化の特色などを、時期や年代、推移、比較、相互の関連や現在とのつながりなどに着目して、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、歴史に見られる課題を把握し解決を視野に入れて構想したりする力や、考察、構想したことを効果的に説明したり、それらを基に議論したりする力を養う。					
③主体的に学習に取り組む態度	日本の歴史の展開に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に探究しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚、我が国の歴史に対する愛情、他国や他国の文化を尊重することの大切さについての自覚などを深める。					
評価方法						
①知識・技能について・・・定期テスト、課題テスト ②思考力・判断力・表現力について・・・定期テスト、論述型レポートの作成等 ③主体的に学習に取り組む態度・・・授業中の諸活動における取り組みの様子、自己評価、生徒による相互評価						
学習指導計画						
時期	単元名	使用教科書項目	単元や題材など内容のまとめりごとの目標	評価の観点		
				①	②	③
1 学期 前半	古代～中世に関する問題演習	・古代～中世における基本的問題から大学入試問題等までを解く。 ・古代～中世における論述問題等に取り組む。	・正確な知識に基づく歴史的思考力によって解答を導くことができる。 ・歴史用語を正しく理解し、論述問題に対応する力をつける。 ・律令国家の形成について、その政治改革過程と変遷を理解する。 ・貴族中心の政治から武家政権への変遷と発展について理解する。	○	○	○
1 学期 後半	近世に関する問題演習 期末テスト	・近世における基本的問題から大学入試問題等までを解く。 ・近世における論述問題に取り組む。	・正確な知識に基づく歴史的思考力によって解答を導くことができる。 ・歴史用語を正しく理解し、論述問題に対応する力をつける。 ・江戸時代の政治と文化について、社会の変容との結びつきを意識して理解することができる。	○	○	○
2 学期 前半	近代前期に関する問題演習	・近代前期における基本的問題から大学入試問題等までを解く。 ・近代前期における論述問題に取り組む。	・正確な知識に基づく歴史的思考力によって解答を導くことができる。 ・幕末・維新期から明治後期にいたる近代国家の形成と発展について、国際関係と国内問題を関連させながら理解する。	○	○	○

2 学 期 後 半	近代後期～現代に関する問題演習 期末テスト	- 近代後期～現代における基本的問題から大学入試問題等までを解く。 - 近代後期～現代における論述問題に取り組む。	- 正確な知識に基づく歴史的思考力によって解答を導くことができる。 2つの世界大戦の時期の日本の歴史を、国際関係と国内問題を関連させながら理解する。	○	○	○
3 学 期	通史など 総合問題演習	各時代、各分野を網羅した問題演習	- 正確な知識に基づく歴史的思考力によって解答を導くことができる。 - 各時代の知識を活かし、発展的な問題に対応する応用力を身につける。	○	○	○
留意事項						

2025年度 地歴公民 科 年間授業計画表						
科目名	倫理	単位数	2	学年・類型	3年文系・選択	
担当者		使用教科書	詳述 倫理（実教出版）		副教材	最新図説倫理（浜島書店）
科目の目標 （指導目標）	人間としての在り方生き方についての見方・考え方を働かせ、現代の諸課題を追究したり解決に向けて構想したりする活動を通して、広い視野に立ち、人間尊重の精神と生命に対する畏敬の念に基づいて、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を次のとおり育成することを目指す。					
評 価 の 観 点 と そ の 趣 旨						
①知識・技能	古今東西の幅広い知的蓄積を通して、現代の諸課題を捉え、より深く思索するための手掛かりとなる概念や理論について理解するとともに、諸資料から、人間としての在り方生き方に関わる情報を調べまとめる技能を身に付けるようにする。					
②思考・判断・表現	自立した人間として他者と共によりよく生きる自己の生き方についてより深く思索する力や、現代の倫理的諸課題を解決するために倫理に関する概念や理論などを活用して、論理的に思考し、思索を深め、説明したり対話したりする力を養う。					
③主体的に学習に取り組む態度	人間としての在り方生き方に関わる事象や課題について主体的に追究したり、他者と共によりよく生きる自己を形成しようとしたりする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察やより深い思索を通して涵養される、現代社会に生きる人間としての在り方生き方についての自覚を深める。					
評 価 方 法						
・小テスト ・定期テスト定期テスト ・授業プリント						
学 習 指 導 計 画						
時期	単元名	使用教科書項目	単元や題材など内容のまとまりごとの目標	評価の観点		
				①	②	③
1 学 期 前 半	第1章 自己形成と 自己の生き方	第1節 青年期の 課題と自己 形成	・青年期の積極的な意義を意欲的に探究しようとしている。 ・青年期の意義を多面的・多角的に考察し、その過程や結果を様々な方法で表現している。 ・青年期の意義に関する情報を収集し、適切に活用できる。 ・青年期の意義を理解し、その知識を身に付けている。 ・葛藤や欲求不満など自己形成の課題について理解を深める ・パーソナリティの形成やアイデンティティの確立をふまえ、自己の生き方について考察する	○		○
		第2節 人間とは何か	・ギリシア思想を人間としての在り方生き方に関わる課題の解決につながるものとしてとらえ、関心を高めている。 ・「善く生きるとは」など、先哲が課題として探究したことを多面的・多角的に考察し、その過程や結果を様々な方法で表現している。 ・ギリシア思想を代表する先哲に関する資料を収集し、適切に選択して活用できる。	○	○	
	第2章 人間としての あり方生き方	第1節 ギリシア思想	・ギリシア思想を自己の課題とつなげて理解し、人格の形成に生かす知識として身に付けている。 ・キリスト教で説かれた人間の存在や価値に関わる基本的な課題を、自己の生き方との関わりにおいて捉え、意欲的に探究しようとしている。 ・原罪や愛など、先哲が課題として探究したことを多面的・多角的に考察し、その過程や結果を様々な方法で適切に表現している。		○	○
		第2節 キリスト教	・現代社会におけるキリスト教の発展がもつ意義などに関する資料を収集し、適切に活用できる。 ・キリスト教の発展過程を学習することを通して、西洋をはじめとした現代社会の基盤となっている思想であることを理解し、人格の形成に生かす知識として身に付けている。		○	○